



## イギリス

### 安心して海外パッケージツアーを利用するには

- Which? ホームページ <https://www.which.co.uk/news/2017/10/travel-agents-get-it-wrong-on-atol/>
- ATOL ホームページ <https://www.caa.co.uk/atol-protection/> ほか

イギリスでは2016年、低価格パッケージツアーを販売する旅行会社が倒産し、海外旅行中の約27,000人が帰国できず、約11万人分の予約がキャンセルされるなど大きな影響が出たが、帰国便の手当てや返金などATOL(航空旅行会社ライセンス)制度ですべてのツアー客が救済された。ATOL制度は、旅行会社の倒産から消費者を保護するために創設され、現在は登録会社が1人につき2.5ポンドを供託しCAA(民間航空局)が管理する。2016年だけで19社が破産し補償金の支出は1470万ポンドに上った。

2017年も、LCCのパイロット不足による大量欠航や倒産で約11万人が海外旅行先で立ち往生するなどの事態になったことから、航空券やツアーの購入に際して旅行会社のパンフレット等に記載の「ATOL保持業者」を安心の目安にする消費者も多

い。Which?はこのほど旅行会社8社に対し「航空券だけの予約(購入)」「病気で旅行に行けなくなった」など10のケースでATOLの補償が受けられるか調査を実施した。その結果、世界的に有名な老舗旅行会社でも担当者が「知らない」と答えたり誤った回答をするなど、安心できない状況が明らかになった。ATOL制度は航空便を含むパッケージツアーが対象であり、また経営母体が外国であれば制度の対象外となる。大量欠航便を出したLCCの旅行会社は経営権が2017年にドイツ企業に移ったが、そうになると最悪の場合消費者には返金されず、置き去りにされても自費で帰国しなければならなくなる。

Which?は、ATOL登録の旅行会社や、特にイギリス国内で営業する外国の旅行会社にその補償内容を消費者にしっかり伝えるよう改善を求めている。



## EU(欧州連合)

### 食品の品質格差是正を

- EU ホームページ・プレスリリース [http://europa.eu/rapid/press-release\\_IP-17-3403\\_en.htm](http://europa.eu/rapid/press-release_IP-17-3403_en.htm)  
[https://ec.europa.eu/commission/sites/beta-political/files/dual-food\\_en.pdf](https://ec.europa.eu/commission/sites/beta-political/files/dual-food_en.pdf) ほか

EU(欧州連合)加盟国のうちいわゆる旧東欧諸国では、外見は同じでも食品の品質が他国より劣るといふ苦情が多い。スロベニアで販売されている苺ヨーグルトに含まれる苺の量は、隣国オーストリアの同一製品より4割少ないため、隣国で購入する人もいる。フィッシュフィンガー(冷凍成形魚肉フライ)は、オーストリアでは魚肉65%だがスロバキアでは58%。ランチョンミートは、ドイツでは豚肉だがチェコでは成形鶏肉だ。いずれも同じメーカーである。メーカーや販売業者は地域の嗜好等を考慮した結果と釈明するが、消費者団体等は、大企業の利益優先による「食品アパルトヘイト」と反発する。

ユンケル欧州委員会委員長は一般教書演説においてEUの結束、経済の好転回復に自信を示した一方で、食品・製品の品質等の格差は容認できないと述

べた。その2週間後、EUの「食品情報規則」「不正商行為指令」に基づき、加盟各国において不公正な食品を是正するためのガイドラインが発表された。さらに、加盟各国で品質比較等を適正・科学的に実施するため、食品品質検査方法の開発JRC(ジョイントリサーチセンター)へ100万ユーロを準備するとともに加盟各国が食品格差の調査研究等を実施するための資金100万ユーロを提供するとした。法務・消費者・男女平等担当のヨウロワーEU委員は「クロスボーダーの問題でありEU全体で取り組むべき。やっと是正へと向かう」と述べた。今後、「自主倫理綱領」作成へ向けたメーカー・業界との対話「消費者サミット」への参加、各国政府の消費者保護および食品安全担当部門のワークショップなどが実施される予定である。



## ドイツ

## 野菜チップスは健康的なの？

- 商品テスト財団「テスト」2017年9月号 <https://www.test.de/Test-Gemuesechips-5220648-0/>
- 商品テスト財団「テスト」2017年1月号 <https://www.test.de/Rezept-des-Monats-Knabbern-im-Heimkino-Gemuesechips-aus-dem-Ofen-5115561-0/>
- 欧州委員会ホームページ [http://europa.eu/rapid/press-release\\_IP-17-2028\\_en.htm](http://europa.eu/rapid/press-release_IP-17-2028_en.htm)

赤かぶ、さつまいも、パースニップ(にんじんに似たセリ科の植物)、にんじん等を使った野菜チップスの人気が高まっている。商品テスト財団がアンケートを取ったところ、回答に応じた消費者のうち40%が、「ポテトチップスよりも健康的だと思う」と答えたという。そこで、同財団は加塩タイプの野菜チップス15商品(そのうち8品が有機品)を対象に、テストを実施した。商品ごとに外観・香り・味・口当たり、油の質、有害物質等を調べるとともに、糖分、塩分、カロリー、食物繊維等については、15商品の平均値とポテトチップス14商品の平均値を比較した。

その結果、野菜チップスの3商品が総合的に「良い」と評価された一方、4商品が「不十分」とされた。油の質は全商品で良好、味等も許容範囲内とされた。

「不十分」と評価された商品のうち3商品(1商品が有機品)からは、高濃度のアクリルアミドが、1商品からは高濃度の硝酸塩が検出された。発がん性が疑われるアクリルアミドだが、現時点では一部の加工食品に指標値(法的拘束力なし)が設定されているにとどまる。そこで、EUは食品事業者にアクリルアミド低減対策を義務づける規則を準備中で、早ければ2018年春に施行予定だという。

なお、平均値を比較すると、野菜チップスは食物繊維が豊富だが、カロリー、塩分、脂質はポテトチップスと同程度で、糖分は明らかに高かった。同財団は、健康面では両者引き分けとしたうえで、多彩な味を楽しみたい人の選択肢のひとつとして、野菜チップスを位置づけた。手作りのためのレシピも公開中である。



## スイス

## 郵便局での菓子販売に幕

- SKS ホームページ <https://www.konsumentenschutz.ch/themen/werbung/post-hat-versprechen-gehalten/>  
<https://www.konsumentenschutz.ch/themen/werbung/post-statt-service-public-suesses-fuer-die-kleinen/>
- FRC ホームページ <https://www.frc.ch/les-bonbons-ont-disparu-au-guichet-pour-apparaître-ailleurs/>  
<https://www.frc.ch/maman-je-veux-des-bonbons/>

郵便局で菓子をねだる子どもの姿は、スイスでよく見られる光景だった。菓子以外にも、玩具、書籍、宝くじ、台所・自動車用品等を取りそろえる郵便局は、地域住民の「よろず屋」として重宝される一方で、子どもを誘惑する菓子の販売は望ましくないという声も上がっていた。

そこで、3つの消費者団体が菓子販売の反対運動を続けた結果、郵便局から「徐々に撤去する」という回答を得たことから、2014年にその実態を調査した。3つの消費者団体とは、ドイツ語圏のSKS(消費者保護財団)、フランス語圏のFRC(ロマンド消費者連盟)、イタリア語圏のACSI(イタリア語圏スイス消費者連盟)である。同団体スタッフが分担してスイス国内の郵便局74カ所を訪れ、まだ菓子が

販売されているかどうか調べたところ、相変わらず72カ所で販売が続いていた。菓子の陳列棚は2～4台の局が多く、最高はローザンヌ中央局の7台だったという。いずれも窓口のすぐ横に、子どもの目の高さで、子どもの気を引く包装の菓子を並べた棚が設置されていたとのことである。

そこで、これらの団体はさらに反対運動を続けたうえ、2017年7月に同じ郵便局を訪れ、同様の調査を行った。その結果、郵便局はようやく消費者団体との約束を果たし、菓子の陳列棚を撤去したことが確認できた。

狭い国土に複数の公用語が並存する同国では、この3団体が各言語圏の消費者の利益を代表し、共通の目的に向かって活動している。